



CONTENTS

本冊子の発行にあたって	01
活動紹介	02
授業インタビュー	03
学生FDサミット	06
他大学交流	08
学生FDスタッフ内しゃべり場	11
編集後記	12

FDS Report

Faculty Development Staff

vol.4

学生FDスタッフ活動レポート2010

編集スタッフ

(2010年度学生FDスタッフ)

産業社会学部 5 回生	山西 悠祐
産業社会学部 4 回生	太田 郁磨
文学部 4 回生	古川 みずき
文学部 3 回生	酒井 望
法学部 3 回生	鈴木 裕太
経営学部 3 回生	横江 利優
文学部 3 回生 (APU 交流学生)	藏園 清邦
理工学部 2 回生	木下 明紀
政策科学部 1 回生	澤野 俊英
文学部 1 回生	大西 里美
文学部 1 回生	伝保 香織

冊子の発行にあたって

この冊子は、教育開発推進機構が進めるFD活動に参加する学生FDスタッフと教育開発推進機構が協力し、作成した冊子で、2010年度の学生FDスタッフ活動を中心に紹介しています。スタッフが取り組みを通じて得たもの、学生が大学や授業に対して感じていること、先生方が授業に対して持っている想い、授業への工夫を少しではありますが紹介しています。是非ご覧いただければ幸いです。

2011年3月 立命館大学 教育開発推進機構



活動紹介

Activities
Introduction



本学の学生FDスタッフは2007年度に誕生しましたが、2年前に学生FD活動の全国化を目指して「学生FDサミット」を立ち上げ、昨夏には全国から200名以上もの学生・教職員が本学に集まりました。学生FDとは学生の視点で授業や大学教育を良くしようという活動ですが、同じ思いの私たち教職員もできる限りの支援を続けています。「他大学を知って自大学を知る」「大学を良くしたい学生・教職員とつながる」「全国に学生FDを広めよう」を合言葉に、あなたも思いを同じくする人たちとの出会いと交流から元気・パワー・やる気を獲得しませんか。

共通教育推進機構 教授 木野 茂

学生FDスタッフの努力により、2010年度は2009年度に蒔いた種が芽を出した年だと感じています。学生FDサミットを通して、着実に大学間の交流(学外交流)が進み、それらの交流が新たな交流を生むという正の連鎖が起こっています。しかし、これらは1つの成果ではありますが、まだまだ発展途上の状態です。次は学外交流から得られた知見を学内に持ち帰り、大学の中で交流や活動を盛んにしていくことが必要です。学内に深く根ざし、また学外に向かって成長し、学生主体のFD活動が花開くためにも、引き続き尽力していきます。

教育開発支援課 中野 正也



■ 学生FDスタッフとは

FDとはFaculty developmentの略称であり、簡単にいうと「組織的に行う教育改善活動」といった感じです。私たち学生FDスタッフは、学生の視点から学生なりの提案をして、教職員の方とともにFD活動を行っています。具体的には、スタッフが印象に残った授業の教員インタビューを行ったり、他大学の学生、教職員とともにFD活動について考える「学生FDサミット」を開催したりしています。また、他大学が主催する学生FDに関するイベントも増えており、そちらにも積極的に参加しています。これらの取り組みを通して、どんな授業が望まれているのか、どうすれば魅力のある授業がつかれるかなど、自ら考えることができ、また多くの学生や教職員の方々と出会うことができます。FD活動の目標はよりよい授業をつくっていくことですが、その過程では多くのものが得られるので、是非多くの学生にFD活動に参加していただきたいと思っています。



開講学部	理工学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	木下明紀

印象に残った理由

毎講義コミュニケーションペーパーを用いて日常生活での化学の疑問を書き、次の講義でその質問に先生が答えるという点が魅力的と感じたからです。気軽に質問できて、よい雰囲気だと思います。

化学 1

安岡 高志 TAKASHI YASUOKA

Q なぜ毎回、化学の疑問を学生から聞き、次の講義で答えるというスタンスをとっておられるのですか？

A 化学で大切なことは、問題を解くというよりも自分で疑問を見つけ、自分で解決することだと思っています。ですので、学生に自分で疑問に思ったテーマを探すという練習になればと思い、10年程前から講義内に取り組みました。実施後6、7割の学生が実施前より物事を知ることになったと感じました。

Q 講義で気を付けていることはなんですか？

A まず学生のことを第一に考えています。学生のためになることならば、私は積極的に取り組んでいます。レポートを課すにも字数制限を持たせ、自分の見解をまとめる能力を身につけてほしいと思い行っています。やりたいことも多々ありますが、悩んだらまずそれが学生に本当に必要なことかを考える。このことは、徹底しています。

Q 最近、講義で工夫したことはありますか？

A Webコースツールを用いて、ディスカッションをする場を設けました。学生同士で内容を教え合い、疑問を話し合い議論が発展していけばと思っています。学生も人に教えることで、自分がしっかり理解しているかを確認することもできます。今は利用率が予想を下回っているのでは非使ってもらいたいですね。

Q 最後に学生に何か一言をお願いします。

A 学生には講義をただ受けるということではなく、教員だけでなく自分たちも講義を良くしようという意識を持ってほしいですね。それが1番学生にとってもプラスになることだと思います。

1



開講学部	政策科学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	澤野俊英

印象に残った理由

少人数授業で且つ先生が外国人の方のため、英語を実際に話す機会が他の英語の授業と比べても圧倒的に多く、「使う」ことで英語が身につけている実感が得られることができます。また、毎回の授業の終わりに先生が洋楽の歌詞を持ってきて皆で歌ったり、たまに学生が先生に日本語を教えるなど、お茶目な先生と楽しみながら英語を勉強できるということが最大の魅力です。

英語 102

RATZLAFF GORDON L.

Q 毎回授業の最後に洋楽を合唱するのはなぜですか？

A 3つの理由があります。1つ目は楽しみながら学習できること、つまりモチベーションの向上。2つ目は実際に洋楽を歌うことで自然と発音が身に着くこと。3つ目は歌詞を知ることによって文化を知ることができるということです。例えば「Take me out to the ball game」という曲ではいかに野球がアメリカの文化に大きな影響を与えているかが分かります。歌はその言語圏の文化を知る一つの足がかりになります。

Q 授業で心掛けていることは何ですか？

A 英語学習で大切なのは学びたいという強い欲望です。しかしある学生は将来の仕事のために、ある学生は旅行のために、ある学生は単位のためになど、学生によって英語を学ぶ理由は様々です。私は個々の学生が英語を学びたいと思う理由すべてに対応できるような授業を心がけています。

Q 日本の大学と西洋の大学の違いは何だと思えますか？

A 昨日私はテレビでやっていたハーバード大学の授業を見ていましたが、大講義室で先生と学生は活発に意見を交換していました。日本の学生は先生を神様のように扱いすぎだと思います。教員と学生が相互に学びあう＝「Interact」が大切だと思います。

Q 最後に学生に何か一言をお願いします。

A 私はよく授業中に「Study! Study! Study!」と言いますが、多くのことを学んだら、視野は広がります。広い視野をもって良い人生を送ってください。そのために、勉強は必要です。Study! Study! Study!

2



開講学部	法学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	鈴木裕太

印象に残った理由

進路を考える上で、実際に現場で働いている人のお話を聞いて漠然とした公務員像が具体的に変わった。ゲストスピーカーの職種も様々で、毎回違った視点からお話を聞けるのが印象的でした。

公務行政セミナー

鷗養 幸雄 YUKIO UKAI

Q 昨年度から始まった「公務行政セミナー」を開講するきっかけは何だったのでしょうか？

A 公務行政特修課程の創設に際して、この課程の人達に公務の実態、そして公務員について理解する機会をもってもらうのがよいのではないかとということがきっかけでした。

Q 公務員の方を呼ぶにあたり、若い方と10年近く働いている人とは、話していただく内容も異なるのでしょうか？

A そうですね。一般に学生向けの説明会では、10年から15年働いている方がその組織の業務について説明して、学生さんに仕事の魅力について理解してもらうことに重点が置かれています。それに対して、この公務行政セミナーでは5年くらいの経験で、学生時代からそれほど経っていない人を中心として、仕事の話はもちろん、自身が公務員を選んだ理由や試験に向けてどのように取り組んだかなど、様々なお話をしていただいています。

Q この授業は公務行政特修の学生のみが受けられるようになっていますが、今後はどのようにお考えでしょうか？

A 公務行政特修課程の学生を念頭においてに設計された科目ですが、他の課程の方にも広く受講していただきたいと考えております。現実には、授業の時間割の都合上、多くの学生に参加していただくのは難しいようです。公務行政特修課程以外の方でも、もちろん公務員の方のお話を聞きたいという学生はいると思うので、人数に限りはありますが、ぜひ参加していただけたらと思います。

Q 今後、どのような授業にしていきたいとお考えですか？

A 学生の皆さんには、公務、さらには社会で働くことはどういうことなのかについて、実際に社会で働く人の姿を通じて考えていってもらい、そのために、さらに工夫を加えて、たくさんの「刺激」を提供できるようにしたいと思っています。



開講学部	文学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	大西里美

印象に残った理由

教職課程を取っていない学生でもグループワークに能動的に参加できる雰囲気がありました。学生の意見を取り入れて、授業の進め方がより良くなっていくところを肌で感じられたところが印象的でした。

現代的教育

井上 史子 FUMIKO INOUE

Q 授業へのこだわりを教えてください。

A 茶道の世界に「一期一会」という言葉があります。これは「この出会いは一生で二度とない出会いであるかもしれないので、この出会いを大切に、相手に誠意を尽くさなくてはならない」というような意味ですが、私は授業もそうあるべきだと思っています。この授業とまったく同じ授業は二度とできませんので、90分間を大切に、思い入れをこめて授業をするようにしています。今回話題にいただいた教養科目（「現代的教育」）の授業では、皆さんに広い視点を持っていただき、さまざまな角度から「教育」について考えていただけるよう工夫しました。皆さんはこれからの日本を担っていく人たちですから、将来のことも視野に入れ、現在の学びを未来に生かせるような、そのような授業を行うよう心掛けています。

Q 今後先生が行っていききたい授業を教えてください。

A 自分の授業スタイルをもっとブラッシュアップし、自分なりに納得のいくものにしていきたいと思っています。小規模授業で学生の皆さんといろいろな対話をしながら双方向で授業ができるのも楽しいですが、大規模授業には大規模の良さがありますから。

Q 最後に学生に何か一言お願いします

A 月並みですが、チャレンジし続ける限り道は先にあるし、常に進み続ける限り前に進むことができます。でも、自分がだめだと思ったり、もうやめちゃうかって思ったりしたら、もうその先はないんですよ。失敗は必ずあります。でも失敗を失敗と思わず、それを自分の糧に変えれば、それは失敗ではなく一つの貴重な経験となります。ですから、失敗を恐れないことです。また、未熟な自分も自分ですから、その責任を取る覚悟をすること。世の中には自分の思い通りにいかないことの方が多くありますが、上手にいかないことを人のせいにしてしまったり、そこで自分の成長は止まってしまう。その困難をいかに乗り越えるか、少しでも良い方向に変えていくかは本当に自分次第なんです。頑張ればきっと、100%自分が期待する形ではないにしても、それに近い形の道はちゃんと将来へつながっていきます。その道が一本の直線であることがベストとは限りません。少し視点を変えてみるだけで、人生に驚きや喜びを見つけることができます。一度きりしかない人生なので、ぜひ満喫してください。





開講学部	映像学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	酒井望

印象に残った理由

インタビューをしてみて、改めて先生の人柄が授業に反映されていると実感しました。哲学専攻以外の学生さんにも、哲学に触れる良い機会になる授業だと思います。

5

哲学と人間

加國尚志 TAKASHI KAKUNI

Q 哲学は、専門的な学問というイメージが一般的にはあるように思いますが、教養科目として学ぶ哲学について、どのように思いますか？

A 大学で哲学を教え、哲学者を生み出すというのは本当の哲学ではありません。哲学は、大学の外で、現実人間が生きている中での問題を考えることから始まっています。教養として哲学を教えるのは、その人の人生のなかで出会う問題に、哲学がどういうふうに応えられるか。そのヒントを与えていくことだと思います。

Q 大教室の授業ですが、工夫していることはありますか。

A 何百人という数になってくると、学生の関心や理解のレベルや学部も多種多様なんですね。そこで必要になってくるのは、それだけ関心が違う中でも、みんなの関心にあうテーマを選ぶということです。たとえば労働というテーマ。これは大学を出た後働くということに関わってきます。あとは自分とは何か、他者との人間関係とか、現代の若者が悩んでいるようなテーマとか…。テーマ選びに気を付けていますね。

Q 先生が配布されているレジュメは、パワーポイント、文章のもの両方あります。それはなぜですか？

A パワーポイントというのは、授業のテーマを見せる事や、視覚情報、つまり写真などを見せるのにはとてもいいのですが、しかし哲学者の言葉を伝えるには足りません。やはり哲学は言葉で考えてほしい。授業では話しきれない細かい内容や、哲学者の言葉をちゃんと読んでほしいと思います。また復習用という意味もあります。

Q コミュニケーションペーパーはどのように考えて利用されていますか。

A 例えば、質問や意見も本当はどんどん手をあげて質問してほしい。でも、今の学生はそういう人、あまりいないですね。代わりに、時間をとって紙に書いてもらおうとみんな質問や意見を一生懸命書いてくれます。これは、僕自身が授業を振り返る上で非常に重要なものなんです。それから、授業の最初に前回の授業の振り返りとコミュニケーションペーパーの紹介をしているんですけども、実はみんなこの部分をすごく注目して聞いているという事がわかるんですね。そのことが、復習にすごく効果があります。また、授業の終わりに時間をとって、授業で聞いたことを言葉にして書くという事は良い教育効果があるんです。

また、大人数なので難しいのですが、なんとか授業を双方向にできるようにしたいと思っています。

英語学概論

倉田 誠 MAKOTO KURATA



開講学部	文学部
開講年度	2010年度
担当FDスタッフ	蔵園清邦

印象に残った理由

授業中同様な大変ユーモアのある先生でした。また先生の英語教育への情熱を改めて感じることができました。

Q 授業に映画のシーンを使用されていますがどのような意図で始められたのですか？

A 2010年度は、「映画で学ぶ英語学」（くろしお出版）という本のための原稿を元に授業を行いました。英語学の授業はどうしても机上の空論になりがちですが、映画の中で当該言語現象を見せることにより、理論だけでなく実践性を強調できていると思っています。言語学者の育成というよりも、すそ野の広い英語学習者の啓蒙を目標にしたいと考えています。

Q 英語学概論の授業から学生に何を学んでほしいですか？

A 英語学概論が英語学習の一助になれば、この授業は成功だと考えています。海外留学の経験がなくても、意識している現象を映画などの英語で強化していくことは可能であることを、早く知って欲しいと思っています。

Q 立命館大学と京都外国語大学の学生の間に違いなどはありますか？

A 特に明確な違いはないです。立命館では主に文学部の学生に教えていますが、「絵心が分か

る学生に絵を教える」という比喻表現を使ってもよいのであれば、その表現がドンピシャのように思います。つまり、教えていて目前で響くものがあります。だからやりがいがあり、たとえば準備に時間が多少かかったとしても、いい授業をしたいと思っています。

Q 最後に学生に何か一言をお願いします

A 将来やりたいと思っているゴールを先に想定し、そのゴールまでに足りないものを意識して、それを4年間で補えば必ず夢は叶います。学生のうちにいっぱい努力しておけば、後の50年は勢いで行けると思っています。アリとキリギリスの童話は的を得ているのです。だからこそ、「これだ!」という目標を早く見つけて努力してほしいですね。夢は単に見るものではなく、叶えるものです。

6

学生FDサミットとは？

8月28日(土)29日(日)にかけて「学生FDサミット・2010夏」を衣笠キャンパスで開催しました。学生FDサミットとは、サブタイトルである「大学を変える、学生が変わる」ことについて、学生と教職員が協働で考える全国規模の企画です。2009夏に学生FDスタッフが1から企画・主催し、2010冬、2010夏と今回で3回目の開催になります。参加人数は徐々に増加し、今回のサミットでは合計200名を超える学生・教職員が立命館大学に集まりました。2010夏までは立命館大学で開催しましたが、次回サミット「2011春」は東京の法政大学を中心とする「HARTコミュニティ」(法政大学、青山学院大学、立教大学、東洋大学から構成されるFD団体)による開催が決定しております。立命館発祥の企画ですが、他大学でも開催されることによって多くの大学に「学生FD」の考えが広まってほしいと思います。

1日目

■ オープニング

まず始めに、自大学紹介及び自己紹介を行いました。200人に上る参加者の自己紹介は、限られた時間の中でも個性的かつユニークで、サミット開幕当初から「この人とお話してみたい」と思われる方ばかりでした。

■ サミット交流タイム(学生・教職員別)

このプログラムは学生、教職員別で行いました。学生はグループに分かれアイスブレイク及びフリートークを行い、教職員は大学ごとに学生とFDに関わる現状報告・意見交換をしていただきました。学生は同世代だけということもあり友達を作る感覚で話が出来ました。

■ ミニトーク

木野先生と学生スタッフの掛け合いにより、学生FDサミットの意義を参加者と確認し合いました。FDや学生FDについて共通の理解を図り、これからのプログラムで学生・教職員に話し合ってほしいことを説明しました。まさにここからが学生FDサミット本番となりました。



■ しゃべり場

学生・教職員混合による自由な語り合いの場で、サミット定番のプログラムです。各グループ少人数に分かれテーマに沿って議論しますが、意見をまとめる必要はなく思ったことを自由に言うことがしゃべり場の意義です。今回は5つのテーマについて一通り意見交換した後、メインテーマである「大学の教育の意義」について話し合ってもらいました。内容が盛りだくさんだっただけにまだまだ語り足りない様子の人や1つのテーマだけ異様に熱を込めて話をする人など白熱した議論が出来たように思います。

■ 懇親会

互いの大学の問題など、様々な話をしながら交流しました。参加者同士でも回を重ねるごとに顔見知りになり学生・教職員の輪が広がっていく感じが感じられました。

2日目

■ FD取り組み紹介

ここでは、それぞれの大学のこれまでの活動紹介を行っていただきました。紹介していただいた大学は北海道情報大学、嘉悦大学、花園大学、名古屋大学、島根大学、法政大学、追手門学院大学、大阪大学、京都文科大学、北九州市立大学の10大学でした。それぞれ工夫があったり、笑いがあったり、楽しい時間でした。また、新しくFD活動を始めた大学の方にはとても参考になったと思います。さらに、活動報告を資料で出していただいた大学も他に15大学もあり、学生FDが着実に広がっていることを実感しました。

■ グループワーク

全体説明のあと、グループごとに小教室にわかれしました。グループは、「大学の教育の意義」という大テーマのもと、具体的な5つのテーマごとにわかれしました。そのテーマは、①「大学の教育と高校までの教育」②「どんな授業を望んでいる？」③「学生生活を充実させるには？」④「成績評価についてどう思う？」⑤「大卒ってなんだろう？」でした。1日目は交流という意味もありましたが、2日目は本格的なFDの話でした。170分という長い時間でしたが、みなさん真剣にそれぞれのテーマを議論し、改めて大学教育について考える有意義な機会になったと思います。

■ グループワークの発表

それぞれのテーマで話し合ってきたことを全体に発表しました。多くの方に参加していただいたため、テーマ①は3グループ、テーマ②は4グループ、テーマ③は4グループ、テーマ④は3グループ、テーマ⑤は4グループありました。ですので、同じテーマでも違う意見がでてきたりと、チームごとの特徴があり、新たな発見もあったと思います。また、違うテーマについてもフィードバックができました。質問もたくさんしていました。みなさんのFDに対する真剣さが伝わってきました。

■ エンディング

エンディングではサミットのまとめ、閉会のあいさつ、HARTコミュニティから次回のサミットの案内、閉会宣言、全体写真撮影会が行われました。また2日間の様子をまとめたムービーも流しました。

今回の「学生FDサミット・2010夏」にはたくさんの方に参加していただくことができました。参加していただいた方に感謝の気持ちを感じると同時に、学生FD活動がどんどん広がっていることを実感しました。次回のHARTコミュニティ主催で行われるサミットでも、さらに盛り上がることを期待し、楽しみにしています。またFD活動が今後もどんどん全国に広がっていったらうれしく思います。



サミットを終えて 経営学部3年生 横江 利優

単年度に2回開催する学生FDサミットにおいて、夏のサミットは「FDとは何か」「学生が出来ることとは」といった、「学生FD」を知ってもらうということに重きを置き開催をしました。しかし、昨年度開催の成果でしょうか、FDといった学生にとってあまり馴染みのない取り組みに対しても自分の意見をしっかり持った学生が増え、私たちの予想以上に議論が白熱したように思います。学生FDが全国の大学に芽生え始めた今、私たち学生FDスタッフもますます精進していかなくはいけなと感じました。

サミットを終えて 文学部3年生 酒井 望

私は今回のサミットが初参加でした。にもかかわらず、司会という大役を任せていただきました。わからないことばかりだったので不安もあり、緊張もしました。しかし、とても貴重な経験ができました。また、グループワークのマネージャーも務めました。他大学の方と交流もでき、とても楽しいサミットでした。



他 大 学 交 流



山形大学交流

概要

今年も山形大学・立命館大学包括的協力協定事業の一環である相互大学訪問が行われました。今年は立命館大学FDスタッフ5名と山形大学の学生6名が協力して「大学と地域」というテーマに沿った交流を進めました。

【交流内容】

9月に行われた相互訪問ではまず2日から5日にかけて立命館大学の学生と教職員が山形大学を訪問し、1日目は本部のある小白川キャンパスで地元の小中高生向けに科学教室などを開講しているSCITAセンターを訪れ、2日目は約50キロ離れた工学部のある米沢キャンパスに移動し、山形大学が研究の最先端であり、地元の産業にも大きな影響を与えている有機ELの研究所を見学しました。3日目は農学部のある鶴岡キャンパスで、キャンパスや地域の美化を担当するエコキャンパス委員会を訪れました。宿泊は農学部が所有する広大な演習林や蔵王山の中腹にある大学の山荘である蔵王山寮など、立命館大学にはない施設にも案内していただきました。

9月23日から26日にかけては山形大学の学生に京都・滋賀を案内しました。1日目はびわこ・くさつキャンパスを案内、夜には木野先生がコーディネーターとなりしゃべり場を行い、お互いの経験を基に「よりよい授業・理想の授業」について意見を交わしました。2日目は琵琶湖博物館や草津市を訪れてフィールドワークをし、琵琶湖と地域と大学の関わりについて知識を深めました。3日目は京都に移動しキャンパスプラザ京都で日本でも最大級の大学コンソーシアムである大学コンソーシアム京都についての説明を大学

コンソーシアム京都事務局長にいただき、その後3班に分かれそれぞれ立命館大学、同志社大学、京都大学を訪れ、各大学で行われている地域と大学の連携事業を視察しました。

相互訪問後、学んだ内容を自大学に還元してよりよい大学と地域の関係性を結ぶ策を練り、12月18日に両大学の学長を招いて東京の山形大学サテライトキャンパスにて成果発表会を行いました。

また、今年は新たな交流の一環として交流学生専用のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が開設され、9月の相互交流の前から活発に交流をすることができました。また、相互訪問後、成果発表会にむけての打ち合わせもこの専用SNSを通じて円滑に行うことができました。



感想

地方国公立大学と京阪神都市圏に位置する私立大学という異なった立場からお互いの大学を訪問し、自大学を見つめなおすことでたくさんのものを得ることができました。1回生の参加者は私だけでしたが、熱い思いを持った学生と教職員による手厚いサポートのおかげで交流や成果発表も活発に行うことができました。この交流事業に関わったすべての方々にお礼を申し上げます。

政策科学部 1回生 澤野 俊英

岡山大学

概要

9月4日(土)から5日(日)にかけて、学生・教職員教育改善専門委員会(愛称SweeTFooD)の主催するi*see2010に参加しました。「大学生が大学生活にすべきこと」というテーマのもと全国の大学から学生・教職員が集まり、個々のエピソード等を踏まえながらそれぞれの大学生活について熱い議論を交わしました。

1日目はアイスブレイクとフリーディスカッションが中心でした。アイスブレイクでは、学生と教職員が混合した小グループにわかれ、大学生活に関する様々なテーマから連想する言葉や文章などを書き込み、それぞれを線でつないでいくというものでした。フリーディスカッション前半は、授業に関する質問に4つの選択肢が用意されたものがスクリーンに表示され、参加者がクリッカーを用いて回答する参加形式の企画で、リアルな考えを知ることができてとても勉強になるものでした。後半では教職員と学生の代表5名が壇上に上がり、司会者を挟んで授業や大学生活に関して両者の率直な意見を交わし合いました。

2日目はグループ内での議論を行いました。「コミュニケーション力」「チームワーク力」「行動力」「自己表現力」「考える力」「シュートアウト力」といった6つのテーマの中から事前に選んで議論をするというものでした。グループ議論の後、他のテーマのグループと話し合いも行い、それぞれのグループで出された議論の経緯や結論等を交換しました。



感想

今年のi*seeはFDからやや外れたテーマでした。私はi*seeに参加するのは3度目になりますが、これまで「学生FD」に関するテーマがメインであったのに対して今回は大学生活に関することが中心で、FD以外のことも多く話すことができとても新鮮な気持ちで参加することができました。同時に立命館の学生FDスタッフとして活かしていけそうな部分も多く見つかったと思います。ここで受けた刺激を今後に生かし、私たちも成長していかなければいけないと強く感じました。

産業社会学部 4回生 太田 郁磨

愛媛大学

概要

11月21日(日)、愛媛大学・立命館大学学生スタッフ交流会が衣笠キャンパスにて開催されました。愛媛大学のSCV(Student Campus Volunteers)に所属する23名と、立命館大学のジュニア・アドバイザー、ボランティアスタッフ、障害学生支援室サポートスタッフ、ライブラリー・スタッフ、学生FDスタッフの13名が参加しました。

各大学の学生スタッフが活動紹介をした後、「なぜ“学生”スタッフなのか」と題して、グループワークを行いました。互いの大学の特徴を理解しながら、学生スタッフとしてのおおの活動や活動への参加経緯を踏まえて議論を交わしました。



感想

愛媛大学のSCVは学生スタッフ同士の横のつながりを大切にしている団体なので、教職員と学生スタッフとの縦のつながりが強い立命館大学との交流は、両大学にとっていい刺激となったのではないかと感じました。また、これまでの他大学交流とは異なり、立命館大学の学生FD活動以外に携わる学生スタッフとも意見を交わすことができたことが印象に残っています。これを機に、今後も交流が続くことを期待しています。

文学部 1回生 大西 里美

愛知教育大学

12月9日(木) 愛知教育大学であいこねスタッフによる「学生の声を聴くFDとは」というテーマのFD集会に参加しました。あいこねスタッフとは、愛知教育大学の教職員と学生のFDスタッフのことです。集会では、1部で木野先生の講演、あいこねスタッフの活動紹介がなされました。2部には学生・教職員混合のグループに分かれ、4つのテーマの基に議論が交わされました。議論は短い時間に関わらず、それぞれの学生の意識が高かったため白熱したものとなりました。サミットに次いで交流ということもあり、多くの学生、教職員との親交を深め、またFD活動において「学生の視点をFDに反映する」ということに意義があることを再確認することとなったFD集会でした。

理工学部2回生 木下 明紀



近大姫路大学

10月16日(土)、近大姫路大学から2名の学生、1名の教員の訪問がありました。この訪問では、FDスタッフを組織化するにはというテーマを話し合いました。少しでも参考になればと、立命館で学生FDスタッフを立ち上げた経緯などを説明しました。

産業社会学部5回生 山西 悠祐

大阪大学

11月30日(火)、大阪大学豊中キャンパス「阪大総長カフェ」に参加しました。大阪大学総長で哲学者の鷲田清一先生が自身の経験や考えを述べて、学生の質問に対して答えてくださいました。「カフェ」という企画であり、お菓子や飲み物をいただきながら良いお話を聞くことができました。

政策科学部1回生 澤野 俊英



追手門学院大学

12月9日(木) 追手門学院大学にて「追手門×阪大」に参加しました。この企画は二部構成となっており、第一部は阪大FD活動(パンキョー革命)についての説明、第二部は「ここを変えたい!追手門」というテーマでのしゃべり場でした。斬新な取り組みが多いイベントだと感じました。

文学部1回生 伝保 香織

広島経済大学

9月15日(水)、広島経済大学から6名の学生(興動館授業改善プロジェクト)の訪問がありました。今回の訪問では、主に学生視点からどうFDを進めていけば良いのかを話し合いました。広島経済大学の学生は、自分たちが主体となって活動を進めているという印象を受けました。

産業社会学部5回生 山西 悠祐



2010年度の活動について

- 太田 ▶ 今年度の活動を振り返ってみてみなさんどうでしたか？
- 古川 ▶ やっぱりサミットが活動のメインだったように感じます。
- 伝保 ▶ 私はサミットに参加してないのて他大学交流が中心でした。今までは立命館のいいところしか見てなかったのですが、他大学と交流することによってそうじゃない部分も見えてきました。
- 澤野 ▶ 僕はしゃべり場のコーディネーターなどの経験を1回生のうちからさせてもらって、自分の成長につながったと思います。
- 山西 ▶ 僕は3年目だけど、2010年度は本当に他大学とのつながりが増えたよね。
- 太田 ▶ 僕はやる気がある学生と出会って刺激を受けました。これからもお互い切磋琢磨して活動ができればいいですね。
- 澤野 ▶ あとは最近授業インタビューを聞き返してみたのですが、改めて授業に興味を持つようになりましたね。
- 伝保 ▶ けれどもおもしろい授業を見つけるのはやっぱり難しいですね。
- 豊桑 ▶ でも、それこそがFDSの活動じゃないでしょうか。どうやったら授業がよりよくなるのか考えていきましょう。
- 澤野 ▶ 後期からは学内・学外と2班に分けてミーティングを進めてきましたが、どうでしたか。
- 木野 ▶ 班分けの発想は良かったと思うよ。学内班はしゃべり場をやりたいかったよね。
- 太田 ▶ 学外班は2月に「学生FDのひろば」を企画しました。それとは別に他大学との打ち合わせや渉外もしていました。

2011年度の活動について

- 木野 ▶ 2011年度はどんな活動をしていきたい？
- 澤野 ▶ FDSの根本的な活動は大学の授業をよりよく変えることですね。2010年度は外部向けの活動中心で、学内に向けた活動があまりなかったように思います。学内の他の団体に呼びかけて一緒に活動をしていきたいです。
- 木野 ▶ 一般の学生にも働きかけたいね。
- 豊桑 ▶ FDSだけの活動になっているのはもったいないですね。色々な人と話をする機会があれば新たな発展があると思います。
- 伝保 ▶ 私は学内の人にもっとFDSについて知ってもらいたいです。ちょっとでも興味を持ってくれたらぜひ見に来てほしい。大西さんがいなかったら私もFDSの存在を知りませんでした。
- 木野 ▶ 大西さんはどうやって伝保さんを誘ったの？
- 大西 ▶ サミットの話を話したと思います。
- 伝保 ▶ 私は学校や教育に関することで他大学と交流したかったんです。そんな私にとって、FDSが掲げる目標は理想的でした。
- 木野 ▶ そういう魅力を新入生に上手く伝えていけたらいいね。
- 太田 ▶ 説明会や看板、ピラ配りなどをしても効果は薄かったです。何かいい方法はないでしょうか。
- 山西 ▶ 新入生に対していきなりFDをテーマで勧誘するのは難しいよね。
- 木野 ▶ 新入生にはやっぱり「授業」をキーワードにして呼びかけるとというのが切り口としては一番いいんじゃないかな。FDSの活動の範囲は広いけど、授業を良くするという目的は欠かせないものね。
- 豊桑 ▶ あとは目に見える活動の成果があれば、同じことをやりたいっていう学生も出てくるのではないのでしょうか。
- 木野 ▶ 他の団体であれば目標がわかりやすいよね。だけどFDSの活動には終わりが無いので難しい。2年前は夏のサミットの前に学内しゃべり場を企画したんだ。ホームページで宣伝をして、スタッフ以外の一般の学生を募集したんだよ。
- 澤野 ▶ 新入生がしゃべり場に参加してFDSを知ったら、1回見学に行ってみようかなって思うんじゃないでしょうか。
- 太田 ▶ 他には、FDSのホームページとブログをもっと活用していきたいですね。
- 澤野 ▶ 普段の活動も記事に書いていきたいです。
- 太田 ▶ そういった記事を読んでFDSに興味を持ち、企画や活動に多くの人が参加してくれたらいいですね。

学生FD スタッフ内 しゃべり場

2011年1月13日に、学生FDスタッフ（以下FDS）内のしゃべり場を行いました。

FDSの今年度の反省と今後の活動について、スタッフと教員・職員それぞれの想いを話し合いました。



参加者

- 山西 悠祐 …………… 産業社会学部5回生
- 太田 郁磨 …………… 産業社会学部4回生
- 古川 みずき …………… 文学部4回生
- 澤野 俊英 …………… 政策科学部1回生
- 伝保 香織 …………… 文学部1回生
- 大西 里実 …………… 文学部1回生
- 木野 茂 …………… 共通教育推進機構教授
- 豊桑 清香 …………… 教育開発支援課職員

編集後記

「なんかおもしろそうやなあ…」スタッフから話を聞き、その思いだけで9月後半からFD活動に乗り込みました。学生FDのメイン活動である夏のサミットには参加していなかったので最初は不安でいっぱいでしたが、今ではなんとか先輩方の後を着いていけるようになった気がします。愛媛大学や追手門学院大学の「学校を変えたい」という意識の高い人々と交流ができ、この活動を通じて他大学の友達も沢山出来ました。今は本当に学生FDスタッフになってよかったと思っています。来年度は活動に積極的に関わっていきたいと思います。

文学部 1 回生 伝保 香織



「大学と地域」という山形大学との交流事業に惹かれて学生FDスタッフに参加した入学したての4月。全国から集まったたくさんの学生から刺激を受けた学生FDサミットがあった8月。初めて東北の地に足を踏み入れた9月。学長の前で緊張しながらプレゼンした12月。この1年間学生FDスタッフとして様々な活動をさせていただきました。初めはFDというワードの意味も良くわからず活動に疑問を感じた期間もありましたが、今ではこの活動をしていて良かったと思っています。その理由は「つながり」です。FD活動を通して高い意識を持った学生や熱い思いを持った教職員の方々とつながりを持てたことが今の私の最大のモチベーションです。

政策科学部 1 回生 澤野 俊英



学生FDスタッフの活動は今年で3年目になります。これまで3年間を思い返すと、今年度の活動は他大学との交流が中心だったと思います。夏に本学で実施された、サミットでのつながりが大きかったですが、これまで頑張ってきた活動の成果だと思います。しかし、ただ交流をするだけでは意味がありません。今後のスタッフ達には他の大学がどんな取り組みをしているのか、そして自分たちの大学はどうか、お互い高め合っていってほしいと思います。楽しい3年間をどうもありがとうございました。

産業社会学部 4 回生 太田 郁磨



本誌編集中に東日本大地震が発生し、法政大学で3月12日(土)、13日(日)開催予定だった学生FDサミットは急遽中止となりました。準備を重ねてこられた関係者の皆様はさぞかし残念であったこととお察し致します。

次の学生FDサミットは8月27日(土)、28日(日)に本学で開催する予定ですので、よろしくお願い致します。

なお、この度の地震で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

学生FDスタッフ 募集中!!

皆さんも一緒にFD活動を行ってみませんか?

学生FDスタッフでは、良い授業づくりや授業・教育を改善するための活動に興味のある方、企画を運営していきたい方などを募集しております。活動は学生、教員、職員の三者で行っていて、ここにしかない経験もあります。興味のある方は是非お問い合わせください。

また定期的にミーティングも行っていますので、いつでもご参加ください。

応募方法

対 象 立命館大学に在籍する学生・大学院生
応募先 立命館大学 教育開発支援課 【衣笠】至徳館4F 【BKC】アドセナリオ1F
Tel: 075-465-8304 Mail: fd71cer@st.ritsumeikan.ac.jp

立命館大学 教育開発推進機構・教育開発支援課

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

R RITSUMEIKAN

TEL: 075-465-8304(内線 511-7141) FAX: 075-465-8318(内線 511-7149)
e-mail: fd71cer@st.ritsumeikan.ac.jp http://www.ritsumeikan.ac.jp/acd/ac/itl/itl_fd/index.html